

SSH NEWS

鳥取県立鳥取西高等学校 企画部・教育企画係

ラオスESD研修

2023/10/03~14



本校は「鳥取県，ラオスにおける水問題をテーマとする文理融合型探究学習」（三菱みらい育成財団教育プログラム）に取り組んでいます。また，グローバル教育やSSH研究開発にも取り組んでいます。ラオスESD研修は，その核となる取り組みの一つです。（本校SSHの情報は[研究開発web](#)でも発信しています）

〈本研修の目標〉

- 1 ラオスという日常と異なる環境でフィールドワークや現地の人々との交流などを通して，国際的な視野を身に付けるとともに，将来言語文化が異なる人々と対話しながら課題解決に向けて行動できるグローバル・リーダーとしての資質や能力，態度を養う。
- 2 国連の持続可能な開発目標(SDGs)等が指摘するグローバルかつローカルな規模での諸問題に気づき，解決に向けた態度や資質・能力を養う。
- 3 調査・研究に必要な協調的な学習方法や語学力を習得するとともに，持続可能性を追究する能力を養う。

※ESD：持続可能な開発のための教育
(Education for Sustainable Development)

ラオス

ラオスは東南アジアの内陸国です。
日本からの直行便はなく、飛行機を乗り
継いで向かいます。

本研修では、水問題・生業・持続可能な
観光をテーマにして、首都ヴィエンチャ
ン、自然豊かな南部パクセー、古都ルアン
パバーンの3都市を巡りました。



～ 研修日程～

期日		研修内容	宿泊
1日目 10/3 (火)	朝	鳥取空港を出発し羽田空港、空路にて乗継地のバンコクへ	ヴィエン チャン
	夜	ラオスの首都ヴィエンチャンのワットアイ国際空港に到着	
2日目 10/4 (水)	午前	【研修】JICAラオス事務所訪問 ・ラオスの概況とJICAの協力内容	
	午後	【視察】「COPE Visit Center」「タートルアン」「バトゥーサイ」 「ワット・シーサケット」「ワット・ホーパケオ」	
3日目 10/5 (木)	午前	【交流プログラム】ラオス国立大学附属 Phonsavan High School ・日本とラオスの文化交流（英語）	ドンコー村
	午後	・ラオス日本センター（JII） ・活動説明と職員との交流、意見交換 【視察】「タイ・ラオス友好橋」「鉄道駅」	
4日目 10/6 (金)	午前	【JICA事業視察（技術協力）】 水道事業運営管理能力向上プロジェクト(MaWaSU 2) ・水道教室の見学	
	午後	・チナイモ浄水場視察 ・ラオスの水環境に関する現状と課題	
5日目 10/7 (土)	朝	空路にて南部の都市パクセーへ	パクセ
	午後	サバイ村からドンコー村へ移動 ホームステイ（メコン川の中州の村「ドンコー村」へ） ・村の見学、子どもとの交流、学校視察	
6日目 10/8 (日)	朝	ホームステイ終了 ・水道設備の調査	
	午後	【無償資金協力・技術協力現場視察】世界遺産（ワット・プー） ・サステナブル・ツーリズム研修 パクセ市場見学	
7日目 10/9 (月)	午前	【青年海外協力隊活動視察】チャンパーサック教員養成校 ・「エコヘルス」隊員の活動視察、意見交換、学校見学	ルアンパバー ン
	午後	【視察】「タート・ファーン滝」「コーヒー農園」	
8日目 10/10 (火)	午後	空路にてルアンパバーンへ	
	夕方	ナイトマーケットでの工芸品見学	
9日目 10/11 (水)	午前	【青年海外協力隊活動視察】森林局・オーガニックマーケット ・「コミュニティ開発」「コンピュータ技術」隊員の活動視察、意見交換	機内
	午後	【工芸品生産地訪問】和紙・木工品・陶器	
	夕方	プーシーの丘	
10日目 10/12 (木)	早朝	托鉢体験	
	終日	スロウボートにてパークウー洞窟・クアンシー滝	機内
11日目 10/13 (金)	午前	世界遺産ルアンパバーン市街地視察 ・世界遺産のサステナブル・ツーリズム ・国立博物館、ワットシェントーン	
	夜	ルアンパバーン空港を出発、ハノイ空港経由にて日本へ	
12日目 10/14 (日)	朝	成田空港に到着後、羽田空港経由にて鳥取空港へ到着、解散	

研修内容のダイジェスト動画を作成しました。
是非ご覧ください。



～ 研修での学び～

本研修後に生徒が作成した感想文やスライドには，現地調査や事前・事後調査で学んだ知識を基にして得られた考察や自分自身の変容への気づきが多く見られました。一部ですが，ご紹介させていただきます。

- ・ 人と自然と宗教の距離が近い
- ・ 開発だけを考えて経済発展を促すのは問題がある，開発と持続性の板挟みの状態にある
- ・ 貧困問題にはさまざまな問題が相互に影響し合っている
- ・ 友だちと一緒に経験したことで，自分だけでは気づけなかったことや，自分と異なる考え方や捉え方を知った
- ・ 国際協力は平等な立場でなくては成り立たない
- ・ 今まで普通に感じていたことは普通ではない
- ・ 勝手に自分の考えや価値観を押し付けようとしてしまっていた
- ・ 何でも自分の価値観で物事を見るのではなく，まず原因や背景を考えて自分の経験や知識と結びつけるべきだった
- ・ 自分が何も知らないことが恥ずかしかった。私は世界について知らない事がたくさんあって，知らないままにSDGsや国際協力について上から目線に語ることはできない

〈 生徒感想文（一部抜粋） 〉

私は日本と違うところを見たとき「こうしたらいいじゃん！なんで日本みたいにこうしないの」と，勝手に私の考えや価値観を押し付けようとしてしまっていました。けれども，それは違って国民性や経済状況など，その国がその状況であるのは必ず原因があると教わりました。何でも自分の価値観で物事を見るのではなく，まず原因や背景を考えてから自分の経験や知識と結びつけるべきだったと反省しました。

たとえ正しい知識を持っていても，実行できない原因は経済力のなさでした。確かに，心は豊かでとても温かい方達でした。しかし，現実には心が豊かなだけでは厳しいです。十分な物の豊かさや心の豊かさと同じくらい重要なものだと思います。人の身体に関わるものに十分なお金を割けられない状況を，「心は豊か」というだけでは片付けてはいけなかったと感じました。

～ 事前・事後研修～

事前研修：鳥取グローバルESDプログラム

内 容：ウラン坑道及び坑廃水処理施設調査，放射線測定実験

鳥取県と岡山県の県境に位置する人形峠には，日本国内屈指のウラン鉱床が存在し，かつてはウランの探鉱から採鉱，製錬，転換，そしてウラン濃縮までの技術開発が行われていました。現在はこれらの研究開発に使用してきた施設・設備の廃止措置が行われています。この研修では，人形峠の地下資源について科学的に正しく理解するとともに，施設・設備の廃止措置に伴う坑廃水処理を知ることにより，水の諸問題を考えるきっかけになりました。

事後研修：

ラオス研修で学んだ内容をまとめ，感想文やレポートを作成し，校内での研修報告会や鳥城AOS2024にて発表しました。

鳥城AOSでは，ラオスでお世話になった木下さんと野澤さん（JICAのMaWaSU2メンバー）を招聘し，ご講評いただきました。研修が参加生徒だけの学びに留まることなく，多くの生徒にとっても学びの素材となるよう工夫しております。

～ 謝 辞 ～

たくさんの人々に支えられ，また天候にも恵まれ，学び多きラオス研修の全日程を終了することができました。本研修に通訳として同行してくださったブンタさんとワーさんをはじめ，現地で活躍するJICAやLJIのみなさま，あたたかく迎えていただいたポンサバン高校やドンコー村のみなさまにお会いできたことが何よりの宝です。本当にありがとうございました。

